

鹿児島島の地質 甑島の地形と地質

甑島列島は、いちき串木野市から約38km離れた東シナ海の海上にあり、北東から南西方向に並ぶ3つの島からなります。北から上甑島、中甑島（平良島）、下甑島とよばれています。上甑島と中甑島は1993年に完成した甑大明神橋と鹿の子大橋で結ばれ、将来的には下甑島まで架橋でつながる予定です。

上甑島の北岸に位置する「長目の浜」は、甑島でも代表的な景勝地として有名で、約4kmにも及ぶ砂州の内側には大きな4つの湖沼があります。いずれも小湾の入口が砂州の発達によってせき止められたものです。須口池と鎌崎池は海水の出入りがないので淡水化していますが、貝池と海鼠池は海水の出入りにより汽水になっています。



「長目の浜」からの眺望

鹿児島島の動物27 この冬の不思議、鳥が少ない!?

2月1日現在、「この冬、毎年見かける小鳥を見かけない」という問合せが、多数寄せられています。特に「メジロ（右写真）を見ない」と言われます。その他問合せ



のあった小鳥は、ほとんどが留鳥（りゅうちょう）であることです。留鳥とは、一年中見られる鳥のことを指します。実際は、日本列島を移動しながら、エサを見つけ、繁殖していると考えられています。逆に「この冬、普段見かけない鳥を見た」という情報が2件寄せられました。

それは、普段は山の中にすんでいる右写真のハイタカ（小鳥などを食べる猛禽類の一種）でした。



ではどうしてこの冬、いつも見かける鳥た

（上甑・中甑島）地質担当 鈴木 敏之

上甑島の地質は、大部分が古第三紀の堆積岩類（上甑島層群）とこれに貫入する新第三紀の花こう岩類です。これより古い中生代白亜紀の堆積岩類（姫浦層群）は、この地域では島の西側や南端部の限られた地域と中甑島に見られます。

上甑島の大部分を占める上甑島層群は、下部から主に赤色頁岩層、砂岩層、頁岩層に分けられます。北東部に貫入した花こう岩類によって、その周辺の堆積岩は熱による変成を受け、一部はホルンフェルスに変わっています。



上甑・中甑島の地質と層序

動物担当 山田島崇文 ちが人里で少ないのでしょうか。これにはいくつかの理由が考えられます。

一つには、小鳥が山にいて人里においてこないことです。山には豊富なエサがあり、人里に来る必要がないのかもしれませんが、しかし、ハイタカは山に留まらず、エサの小鳥を探しに人里まで現れていることを考えると、山には小鳥が少ない可能性があります。

二つめに、小鳥が鹿児島までやってきていないことも考えられます。北方に豊富なエサがあるのかもしれませんが、この冬は暖かくてわざわざ鹿児島まで移動してこなければならないのかもしれませんが。

いずれにせよ、はっきりとした理由は今のところわかりません。春にかけて人里にもやってこられるかもしれないので、これからも注意深く観察を続けてみましょう。

今回の現象は、「あれ？変だな。」という気づきがきっかけになったと思います。みなさんも身の回りの自然をもっと見つめてみませんか。すごい発見があるかもしれませんよ。